

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0572608982 | | |
| 法人名 | 有限会社 白岩の郷 | | |
| 事業所名 | グループホーム花みづき1号館 | | |
| 所在地 | 秋田県仙北市角館町白岩下西野103 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年 1月 15日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団 | | |
| 所在地 | 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年2月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個性を大切に、その人らしく暮らせるよう支援することを理念としてケアに当たっている。地域との関わりも大切にしており、地域の行事へ利用者様と参加したり、利用者様との散歩中には近隣住民との交流があり、認知症への理解を得ることに繋がっている。また、地域の認知症の方や要介護状態にある方の災害時の受け入れができるよう自主防災組織と協力関係を作っている他、認知症カフェの開催等地域の認知症介護の拠点としての役割を果たせるよう取り組みを行い、お互い様の関係を築いていけるよう努めている。介護福祉士等の資格取得者や、認知症介護実践者研修等の専門研修の修了者も多く、利用者様・ご家族様・地域住民の安心に繋がるよう、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オレンジカフェには薬剤師、救急救命士、警察、昔がたり、こけ玉やソープカービング等々多くの講師が協力してくれている。住民の繋がりが強く、地区運動会や保育園、小学校とホームの関係が良好。正に地域の資源としてホームが存在している。年2回の避難誘導訓練には、近隣住民が駆けつけてくれており、「いつも必ず来るから」との言葉に、ホームが地域の資源として地区住民に浸透していることがうなづける。ほぼ全スタッフが介護福祉士を有しており、家族も専門性の高さに安心している。角館温泉花葉館を会場に全利用者や家族が参加する総勢70名を超える敬老会を毎年実施しており、芸能ボランティアや家族のカラオケで盛り上がる。楽しいレクリエーションが盛り沢山と好評で、スタッフがいつも笑顔で気遣いが行き届き、親身になって対応してくれると家族より信頼されているホームと云える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果(1号館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員の意見をもとにつくった理念を、玄関や事務所に掲示し、出勤時や業務中、目に入るよう工夫している。迷った時や行動する際の根拠として意識し、実践につなげていくことが今後の課題だと感じている。 | 経営理念に加え、3ホーム共通の理念が策定され、手書きの温かさが伝わるホームの理念は、各玄関に掲示されている。理念の全文を覚えることは難しいため、上段にキャッチフレーズ、その下に4項目に区分けしたとのこと。平成28年に3棟目のホームが増築されたことを機に、全スタッフの思いを自分たちの言葉で表現するため、アイデアを管理者会議で集約した。それを取りまとめた際の資料は今も大切に保管されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナウイルス感染予防の為に、これまで通りではなくなった事もあるが、利用者様との散歩や外出時には近隣住民と挨拶したり、お花や野菜を頂いたりこれまで通りの交流を続ける事ができた部分がある。 | 3棟目のホームが増築される際、社長の意向で地域交流室が設けられ、地区住民を対象に地域交流室を活用し、先駆的にオレンジカフェを実施している。オレンジカフェには薬剤師、救急救命士、警察、昔がたり、こけ玉やソープカービング等々多くの講師が協力してくれている。旧白岩村3地区時代から住民同士のつながりが強く、地区運動会や保育園、小学校とホームの関係が良好。正に地域の資源としてホームが存在している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 新型コロナウイルス感染予防の為、認知症カフェは休止しており、十分に地域貢献できたとは言えないが、認知症なんでも相談所等、地域の相談窓口としての機能を果たしていけるよう、働きかけていきたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度は書面開催だが、利用状況、活動報告等により、事業所の現状や利用者様の様子を伝え、それに対する意見や質問を受けられるようにしている。感染予防しながら対面で開催できるよう検討していきたい。 | 行政職員はもちろんのこと、地区住民代表や地域運営体代表、民生委員、家族、利用者が出席しており、「何かあったら皆で助けるから。」という出席者からの言葉から、地域住民との互助関係の強さが手に取るようにわかる。数ページに及ぶ詳細な運営推進会議議事録である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 施設長や管理者が主に会議や集まりに参加する等して連携や情報交換を図ることで、他事業所での取り組みや新たな情報、市町村からの助言などを得ている。 | 仙北市包括支援センターや仙北市ケアマネットの他に認知症地域支援推進員等、仙北市との連携・協力体制が構築されている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年2回以上、社内研修を開催し、例外三原則や禁止の対象となる具体的な行為、身体拘束がもたらす弊害等について確認している。 玄関は面会時間である7時～19時の間は施錠していない。 | 身体拘束等適正化のための指針が整備され、基本的な考え方、適正化検討委員会、職員研修に関する基本方針、発生時の対応等が詳細に定められている。「身体的拘束適正化に向けたガイドライン」に基づいた研修プログラムが策定され、特に指針についての説明は毎年度繰り返し管理者が講師となり研修している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年1回、県内で報告されている高齢者虐待の実際の数や内容についても触れながら高齢者虐待に関する社内研修を実施している。不適切なケアの段階で防止できるような職場の環境づくりが必要だと考えている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 年1回、権利擁護に関する社内研修を実施している。職員が実際に関係者と話し合うような場面は少ないが、相談があった時に制度の概要や相談窓口等を紹介できるように今後も理解を深めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前には重要事項説明書に沿って、利用料金やサービス内容について、可能な限り対面してコミュニケーションを取りながら説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書に相談窓口を記載している。また、連絡ノートの返信欄に意見や要望を記入してもらっている他、面会時や電話で意見を聞く等して、気軽に話してもらえるような関係づくりに努めている。 | 角館温泉花葉館を会場に全利用者と家族が参加する総勢70名を超える敬老会を毎年実施しており、芸能ボランティアや家族のカラオケで盛り上がる。「花みづき友の会」と銘打った笑顔の写真がいっぱいの機関紙(ホームだより)は、「誕生会・外出・手芸・脳トレゲーム等、楽しいレクリエーションが盛沢山」と家族から好評である。スタッフがいつも笑顔で気遣いが行き届き、親身になって対応してくれるので、安心して任せられるホームと云える。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務内容、行事の企画に関する提案の他、利用者様のケアに関する相談、職員の勤務体制に関する事等、些細なことでも職員会議で話し合っている。 | 毎月のユニット会議、管理者会議の他、代表とスタッフの個別ヒアリングが実施されており、電動ベッドの導入や、それにとまなう畳スペースの撤去、大雪時の食材の配送業者の活用等につながっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課の他、職員とコミュニケーションを取りながら就業環境についての要望等の把握に努め、昇進、昇給制度、資格手当の他、研修受講の支援によりキャリアアップの機会をつくっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 認知症介護実践者研修やリーダー研修受講の支援によりキャリアアップの機会をつくっている他、資格取得支援等を行い、職員が働きながら知識や技術を取得できる機会をつくっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他グループホームや他事業所が集まる研修会に参加できるよう調整したり、市内でもケアマネネット、多職種研修会が開かれており、参加できるようにしている。相互訪問はできていない。 | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所の前後には特に気にかけて対話をする時間を設けるようにしている。 また、他利用者との関わりや生活の様子から、気付いた事についても本人や家族に確認するようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前には可能な限り顔を合わせて面談する機会を持ち、サービス利用に至った経緯や現在の困り事、入所にあたって心配な事等を聞き取るようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族との面談には、担当介護支援専門員(居宅)にも同席してもらい、必要な支援の見極めができるよう努めている。また、必要に応じて現在利用中のサービス担当者とも連携を図るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様と同じ物を見て感じた事を話したり、昔の暮らし、料理や生活の知恵等、職員が利用者様から教わる場面が多く見られる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 介護職員から見た利用者様の現在の状態や必要な支援と、これまでの生活を見てきた家族から見た必要な支援をすり合わせながら支援できるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルス感染予防の為、家族や馴染みの人との外出や交流はできていないが、電話や手紙での交流、施設だより発行の頻度を多くする等して、お互いの近況を報告し合うきっかけづくり等の支援をしている。 | 家族と馴染みの美容院へ外出を兼ねて出かけたり、娘と温泉や食事に行ったり、他のユニットにかつて交流のあった方が入居し、ユニット間で交流を図ったり、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 性格や価値観の違い等から利用者様同士が衝突する事もあるが、お互いを理解して共同生活を送ることができるよう、間に入って関係の調整等の支援をしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了したことにより、本人や家族への支援が途切れてしまわないよう、次のサービスへつなげる支援を行い、相談援助に努めている。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 関わりの中で聞き取った意向や気持ち、気付いた事等は職員間で共有し、会議等で検討している。意思表示が難しい方も、関わりの中で得た情報から本人本位のニーズを導き出せるよう努めている。 | 物干し竿用に、縄ないの上手な利用者にはビニールひもで丈夫になってもらったり、縫物の得意な利用者にはほつれを修繕してもらったり、布巾を縫ってもらったりする等、スタッフが利用者個々の得手不得手を把握し、活躍する場を意図的に提供できるよう取り組んでいる。スタッフと1対1になる時間に、食事の際となりの利用者の音が気にしていることを聞き、プラスチック製の食器に変更を試みたこともあった。一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の他、担当介護支援専門員や、利用しているサービスの担当者等、様々な視点からの情報を得るようにすることで、足りない情報にも気付くことができている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身の状態、疾患の情報、在宅での過ごし方と現在のズレ、リスク、精神的・身体的負担、楽しみ、安らぎ、他者との交流等、介護職員や看護師など様々な視点からの情報から現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 会議や申し送りの時間等を活用し、現状の評価や課題について話し合っている。また、評価や課題について本人や家族とも共有し、それに対する意見を聞きながら計画の見直しを行っている。 | 申し送りや日常業務を通じ、本人の課題を分析し、ケアマネジャーである管理者が原案を作成し、更にスタッフにフィードバックすることで、現状に即した介護計画を作成している。足踏み体操の導入の可否やトイレ誘導による夜間パット外し等々につなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画に沿った支援を実施した経過や結果がわかるよう記録し、実施状況を把握している。 また、会議や申し送りの時間を活用し、評価や課題の整理を行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 身近に支援してくれる家族が居ない方や、事業所で対応が困難なケース等、専門職と連携・助言を受けながら対応できるよう努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 制度や事業等の把握に努め、必要時は活用できるようにしているが、事業所内で完結しようとする事が多い為、インフォーマルな資源の把握や活用も含めて今後の課題だと感じている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に本人や家族の希望を把握し、望む医療の提供や通院の支援ができるように支援している。また、状態の変化に合わせて提案や話し合いの機会を持つようにしている。 | 入居前のかかりつけ医を継続することを基本としている。遠方の医療機関を症状が落ち着くまでは利用したいとの要望もあることから、入居時に十分に確認し対応している。月に2回、歯科の訪問診療を利用できる。ホームのかかりつけ薬局とは、一包化はもちろん、何でも気軽に連絡しあえる関係にある。薬剤師はホームのオレンジカフェにも協力してくれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤の看護師である為、不在時の情報の共有や受診の必要性等についての連携がしっかり取れるよう気を付けている。会議や普段の業務の中でも気付いた事の相談や助言を得られている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時の利用者様に関する情報提供を行い、安心して治療が受けられるよう支援している他、入院後は入院先の相談員や病棟看護師と連携を図りながら、早期退院に向けて支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化及び看取りに関する指針について説明・同意を得るようにしている。その際は事業所でする事についても説明している。 事業所での看取りの経験は無いが、今後対応できるよう検討していきたい。 | 各ユニットに看護師が配置され、1日4時間、週に2日勤務していると共に、駆けつけを想定し、24時間オンコール体制を取っている。「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」に基づき、本人や家族に説明し、都度意向を確認しながら対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は定期的に普通救命講習を受講し、急変や事故に対応できるよう努めている。また、急変のリスクの把握や兆候を早期に発見できるよう、看護師や主治医から助言を受けるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防計画を整備し、年2回の通報・避難・消火訓練を近隣住民と協力して行っている。また、災害時の対応について、定期的に社内研修を行い、現存のマニュアルの見直し等を行っている。 | ハザードマップ上での水害の危険性は低いですが、孤立の危険性を考慮すると絶対安全とは言えないので、現存のマニュアルの見直し等を行っている。白岩地区自主防災組織に加盟しており、地区の避難所として登録されている。地域交流室には流しやトイレがあり、災害時に活用して欲しい旨を運営推進会議で議題にしている。寝具が無い現状ではあるが、住民が布団を持ち寄ると話してくれている。年2回の避難誘導訓練には、数名の近隣住民が駆けつけ外での誘導や見守りに協力してくれている。「夜は若い者が協力できるが訓練には高齢者で申し訳ないがいつも必ず来るから。」との返答に、ホームが地域の資源として地区住民に浸透していることがうなづける。 | 風水害や地震等の災害を想定したマニュアルの見直し中であり、改定を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 育った環境や生活歴等から、現在の人格や価値観を形成する過程は一人ひとり異なっていることを職員は理解しながら対応するようにしている。 | ボタンが取れかかると、スタッフの分も裁縫の得意な利用者が繕ってくれ、役割ややりがいを意識し支援している。スタッフは基本さんづけで呼んでいるが、利用者からは「母さん」「ねっちゃん」等々気軽に声掛けされている。当日、少々不穏になった利用者「うん、分かった、分かったからね」とさりげなく声掛けするスタッフの対応が確認できた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事や入浴、過ごし方等について、本人が自己選択できるように支援している。判断や選択が困難な場合でも、選択しやすい提案や声掛けを行い、自己決定できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 可能な限り利用者様本位を心がけているが、どうしても優先させなければならない事に対応できない場合は、後で時間を作り対応したり、業務に優先順位を付けて臨機応変に対応できるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節や気温に合った衣類を選択できるように支援したり、美容院や理髪店への外出支援、化粧などを楽しめるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様からのリクエストをメニューに取り入れたり、一緒に調理や盛り付け、後片づけを行えるように支援している。 | ホームの畑から旬の野菜が採れる。春はバッキヤ(ふきのとう)味噌や天ぷら、わらび、ごみ等々の山菜が豊富で、おすそ分けを近隣住民やスタッフ家族からいただくとのこと。みずの皮むき等利用者が下ごしらえしてくれる。3ホームそれぞれが独自に献立を作成しており、一度交換研修をし、量や味、温かさ等互いの気づきにつなげている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分チェック、食事量チェックの他、食の習慣や食事形態、好みの食べ物、飲み物等を支援の初期段階で本人や家族に確認し、要望に沿った支援ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎日の口腔ケアの他、定期的に歯科往診を受け、異常の発見や口腔ケアに関する助言を受け、食べる楽しみや健康維持につなげられるよう支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿・排便チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して支援している。なるべく失禁を軽減し、トイレで排泄できるように努めている。 | 「失敗しようと思って失敗している人はいない。自分だったら失敗した時にどう思うかを考えることが大切。それより、失敗しないで済むよう支援することだ。」と管理者は熱く語る。入院中にリハビリパンツを使用していたことで、家族がリハビリパンツを持参したが、失禁がないことを確認し、布の下着に切り替えたとのこと。パット使用の際も大きさや使い方を研究し、排泄の自立に向けた支援に心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食材には食物繊維を含む物を多く取り入れ、水分摂取や乳製品の摂取ができるよう支援している。歩行の不安定な方でも、日中は職員と一緒に歩いて移動する等、便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 朝風呂が好きな人、午後に入浴したい人、毎日入浴したい人など、一人ひとり習慣や要望が異なる為、ある程度入浴日の予定は立てているが、それに縛られないよう個別に対応している。 | 最低でも週に2回は入浴出来るよう、曜日等を定めてはいるものの、希望により週に3~4回入浴する方もいる。冬至にはゆずをネットにいれ、湯舟に浮かべ楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝・起床の時間は個々に違う為、一人ひとりに合わせた支援をしている。夜間不眠の方でも、活動と休息のバランスを見ながら、日中適度に活動して夜はゆっくり休めるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 用法や副作用に関して主治医や薬剤師から受けた説明は、職員間で共有している他、副作用のリスクについては本人や家族へも情報提供して、服用後の経過を観察・主治医への報告を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | できる事、得意な事、好きな事などを把握し、持っている力を活用する事で誰かに必要とされたり、頼られたりする場面をつくれるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に沿って、散歩や季節を感じられるようなドライブ等を楽しめるように支援している。現在、新型コロナウイルス感染予防の為、実施できていない事も多いが、普段は温泉に出かけたり、外食、外泊等ができるよう家族とも協力して支援している。 | 角館に位置し、田沢湖も近い環境にある。抱返り溪谷や田沢湖畔、武家屋敷の紅葉、ラベンダー園へ出かけたり、川下の公園で花見、刺巻の水芭蕉等々に出かけたりしている。自宅の猫に会いたいとの希望があった方には、家族と連絡をとり実現させる等、家族との外出の機会を持てるよう取り組んでいる。冬も天候を考慮し、散歩できるよう配慮している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が可能な方は、家族も同意の上で現金を所持しており、欲しい物等を購入できるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 県外や遠方に居る家族や親族とも交流できるよう、電話で話せるように支援したり、手紙や写真を送れるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全館に換気システムがあり24時間換気されている。生活に不可欠な場所は分かりやすく表示し混乱しない工夫や、清潔を保ち快適に使用できるよう支援している。また、玄関ホールや居間には季節を感じられる装飾をして、見当識へ働きかけている。 | 廊下に掲示されたシルバー川柳に思わず笑みもれる。スタッフがあちこちから利用者向けの川柳を見つけては掲示してくれている。ホームはいつも清潔で家族に喜ばれている。脱衣室はとっても暖かい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーや椅子、テーブルの配置を工夫し、気の合った利用者様同士で交流できるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所前にはなるべく居室の広さや間取りを確認してもらい、持ち込む物を決められるように支援している。居室はプライベートな空間として心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。 | 各居室入口の名札や本人の写真が工夫され、そのデザインがとてもおしゃれである。カーテンや壁紙が部屋毎に異なり、いかにも自室を思わせる。居室の暖房はFF式石油暖房機で、防火に優れたものを採用している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ、居室などの場所をわかりやすく表示し、混乱しないよう工夫している他、自室に洗濯物を干す場所があったり、自然と動作が生まれるような、生活感のある環境になるよう工夫している。 | | |